

# εἰρήνη

エイエレーネー

知っておきたいキリスト教のことば (182)

平和 へいわ

「平和」という言葉は、日常でもよく用いられます。ただしそのときは、戦争や争いがない状態のことを指すことが多いと思います。しかし聖書の平和(ギリシア語のエイエレーネー)は、シャロームというヘブライ語が元になっています。そのことを考えると、その意味は少し違って来るようです。

シャロームとは、あらゆる面で満ち足りていることをいいます。そしてその恵みの根源は、神さまです。つまりシャロームは神の業であり、人間にとっては救いそのものとなります。

その意味で考えると、聖書で語られる平和はイエス・キリストによってもたらされた救い全般だと言えます。

イエス様は十字架の死によって、神さまとの和解をわたしたちに与えられました。その出来事によって、わたしたちには平和がもたらされたのです。つまり神さまとの正しい関係の中、神さまと人が共に生きることが平和、シャロームというわけです。

イエス様は山上の説教の中で、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイによる福音書 5章9節)」と語られます。これははなにも、反戦運動をしろということではありません。神と人とが共に歩む世界、これを実現しろということなのです。その人たちこそ、神の子だというわけです。

シャロームは、ユダヤ人の間ではあいさつの言葉として用いられています。その意味は、「神さまがあなたと共にいてくださいますように」ということです。ルツ記に出てくるボアズも、そのような挨拶を交わしていました。

そしてわたしたちも手紙やメールに、「主の平和」と書くのです。神さまがあなたと一緒にいてください、そう願いながら。

次回は「ベツレヘム」です。お楽しみに。



「落穂を集めるルツとボアズ」

カジミエシュ・アルチモヴィチ

(1840～1916年)

「いと高きところには栄光、神にあれ、  
地には平和、御心に適う人にあれ。」  
(ルカによる福音書 2章14節)

